

# PAW2012 東北復興支援 Vol-2

私たちは、この高校生の問いかけに  
どう答えるのでしょうか？

横浜ふね劇場をつくる会では、昨年、ARC>T、日本演出者協会と連携して東日本大震災の被災地である宮城、岩手、福島県の3県から3団体を横浜に招聘し、東北復興に向けたネットワーク事業としてPAW2011『東北復興 Week』という企画を実施しました。

日本演出者協会では昨年フェニックスプロジェクトという事業を3回開催し、今この時も被災の『場所』で戦い続ける舞台芸術を創造する仲間達を応援してきました。今年3月には、この世界の未来をこれから担い、創造してゆく高校生達と様々な思いについて共有する時を持ちたいと思いフェニックスプロジェクト Vol. 4 を開催し、福島、東京の高校生からのメッセージを発表する機会を創りました。

この中であさか開成高校の『この青空は、ほんとの空ってことはいですか？』が素晴らしい作品に仕上がっていました。この芝居を神奈川・横浜の高校生にも観てもらい、あさか高校の生徒と交流する機会を作れないかと今回の企画になりました。

横浜ふね劇場をつくる会 事務局長 一宮均

今、福島で何が起きているのか？

あさか開成高校の演劇部の皆さんとの最初の出会いは、昨年の11月に福島県郡山市で“演劇大学”を開催した時でした。2010年に開催が決定したのですが、昨年2011年3月11日の大震災によって内容、時期、場所の変更と検討を重ねての特別な事業となりました。予想を超えた多くの方が参加して下さい、開催中にメディアでは報道されないさまざまな現状を知りました。特に印象に残っているのが、ツイッターによる異常な差別の言葉、マスクをすると虐めにあうという高校生の言葉でした。風評被害を含め人災の恐ろしさに立ち向かうために演劇があるとのことでした。今年の1月に郡山で高校演劇の指導をされている青木淑子さんからお電話を頂き、あさか開成高校の演劇部の皆さんが自分たちの舞台をぜひ多くの人に観て欲しいと思っていることを知りました。直ぐにもフェニックスプロジェクト Vol.4 を立ち上げ3月10、11日に相馬高校、新宿高校と共に上演会を実施しました。いずれも満場のお客様から本当に強い呼応がある作品でした。もっと多くの方に紹介できればと思っていました。横浜での公演を実現して下さい皆様心より感謝申し上げます。

日本演出者協会理事長 和田喜夫

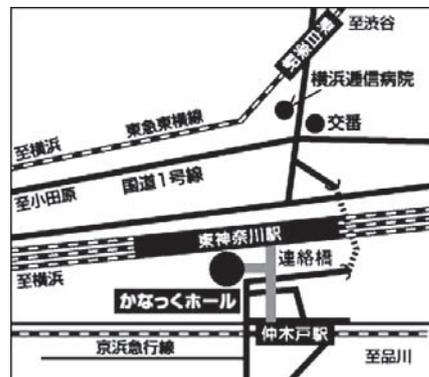
## 『しのぶの演劇レビュー』から

詩集「智恵子抄」(の“あどけない話”)を題材にした芝居を上演するはずだった郡山市の高校演劇部。でも今はウルトラマンと怪獣が登場する格闘モノの稽古をしています。今となっては智恵子の言う「本当の空」にリアリティーがないと主張する副部長と、それに反発する部員。間に入ろうとしてそわそわしている部長、そして転校してきた新入部員。夏なのに窓を閉め、長袖・長ズボンを着てマスクをしなければならない日常生活の中で、震災以前なら生まれなかったかもしれない、高校生の悲しみ、葛藤、闘いが描かれました。

ひまわり畑の場面でピーーピーーと、どこかで聞いたことのある音が小さく鳴り続け、何だろうと思っていたら線量計の警告音でした。4 $\mu$ Svから5 $\mu$ Svとは、高いです。高校生が「そこ線量高いからこっち来い」と声を掛け合う、この現実の恐ろしさ。

副部長イソジンを演じた今野健太さんの演技に見入りました。福島第一原発の10キロ圏内から転校してきた女子新入部員(香西佳菜子)との2人だけの場面では涙が流れっぱなし。なぜ避難なのに線量の高い郡山に来たのか。なぜマスクをしないのか。どうして自分を守らないのか。強く問いかけ、正直な気持ちを答える対話の形で問題を明確にし、今の意志を伝えてくれました。

現代演劇ウォッチャー 高野しのぶ



かなっくホール (横浜市神奈川区民文化センター)

所在地 〒221-0044 横浜市神奈川区東神奈川 1-10-1

TEL : 045-440-1211 FAX : 045-440-1139

(受付時間 9:00 ~ 21:30)

交通アクセス

■ JR 東神奈川駅、京浜急行仲木戸駅から、

連絡橋「かなっくウォーク」で徒歩 1分

■ 東急東横線東白楽駅 徒歩 10分

